



絹川委員長「生の現場を見る機会はなかなか得難い。皆さん将来へ繋げて欲しい」



流域下水道事務所 市田所長「工事現場が持つ迫力をぜひ体感してもらいたい」



事務所内で工事概要を説明。桂川右岸地域住民の命を守る大プロジェクトだ。



深さ約30mの立坑内。パネル説明の後、実際にトンネルへ足を踏み入れた。



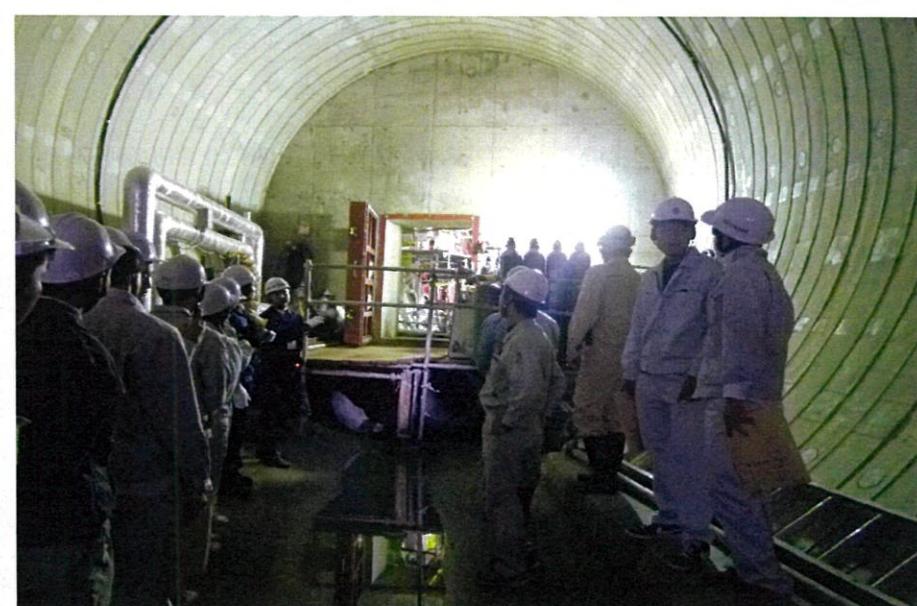
トンネル内では直上を走る東海道新幹線に配慮した施工法や素材が採択されていた。



現在施工中の「凍結工法」について、実際に再現したモデルを使って解説。



乙訓ポンプ場立坑内。先ほど見た南幹線と違い、既に供用中で内径も約1.8倍大きい。



凍結工法の現場前。工事中の浸水被害を防ぐため造られたコンクリート壁の先には…



トンネルを掘ったシールドマシンの刃先が!解体前の貴重なマシンを実際に触れられた。



マシンの全景。至る所で見られる摩耗した刃先が、地盤の固さと難工事を物語る。



事務所の方には、工事概要の他に、工事の難点、自身の普段の仕事内容まで語って頂いた。



生徒代表による謝辞「忘れられない貴重な経験でした。これからも頑張りたい。」